

つなぐ 第5号

新唐津市民会館（仮称） 管理運営計画検討委員会 かわら版

発行日：令和6年3月22日

『新唐津市民会館（仮称）』 シンポジウム ～文化と地域社会を結ぶ～

市では、令和5年6月から「新唐津市民会館（仮称）管理運営計画検討委員会」において「新唐津市民会館（仮称）管理運営計画（案）」の検討を行ってきました。

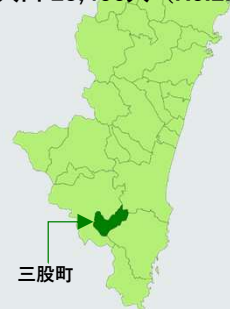
それに伴い、新唐津市民会館（仮称）の開館により、「文化芸術の振興」「まちの賑わい」「市民の楽しみ」「観光客の誘致」など、あらゆる分野へ波及することを目指し、機運醸成のきっかけづくりを目的として、令和6年1月27日（土）に「新唐津市民会館（仮称）シンポジウム」を開催しました。

【話題提供】文化と地域社会を結ぶ 三股町立文化会館の事例から

管理運営委員会の委員長でもある五島朋子氏より、話題提供として三股町立文化会館の取り組み事例をご紹介します。



宮崎県北諸県郡 三股町
人口 25,406人（R6.2.1時点）



三股町立文化会館
2001年3月 11月3日開館
ホール：可動客席413席
運営：三股町直営

【三股町立文化会館の取り組み】

- ・2004年から、隣の都城市を中心に全国で活動している劇団こぶく劇場とフランチャイズ契約をし、主に人材育成やアウトリーチ活動の協力を得て、ワークショップや戯曲講座を実施している。
- ・町民が創った台本を町民が演じ、文化会館だけでなく、町の複数箇所でも公演をおこなう「みまた演劇フェスティバル まちドラ！」へと発展していった。
- ・これまで演劇経験のない初心者から、常連参加者となっている町民、また観客が複数の公演場所を移動する道中まで楽しめるよう、工夫がされている。
- ・子ども向け事業や町民参加型事業等、事業が重なり合いながら、スパイラル状に広がっている。
- ・自主事業によって、三股町は九州で活動する演劇人が行きたい町になっている。
- ・文化会館で始めた事業が、文化に関わる町民を育てるだけでなく、文化愛好者と町民、専門家の交流となり、町のにぎわいづくり、町づくりに影響を与えている事例になっている。



発行：唐津市地域交流部観光文化施設課

〒847-8511 佐賀県唐津市西城内1番1号（大手口センタービル5階）

TEL/ 0955-53-7129 FAX/ 0955-72-9182 Email/ kankou-shisetsu@city.karatsu.lg.jp



◆ トークセッション

新唐津市民会館（仮称）管理運営計画検討委員会委員の五島朋子氏、田島龍太氏、糸山裕子氏にご登壇いただき、新しい施設や唐津市の未来について、トークセッションを行いました。（以下敬称略）

管理運営計画検討委員として一言

【田島】曳山は美術館に展示されている美術品とは違い、使うものであり、一方で展示・保存されるべきものです。唐津市はそれを1年中展示するという選択をしました。ぜひ多くのお客様を迎えられる施設になってほしいと思います。

【糸山】今の文化施設は“外の世界とどれだけつながれるか”求められていると感じています。新しい施設が未来を見据えた施設になればと思います。

【五島】劇場という場所は興行的な役割を持ちながらも、“誰もがいつでも関われる場所”としての役割も求められてきています。それが果たせる施設になってほしいと思います。

新しい施設はどんな施設になるとよいと思いますか

【五島】新しい施設を使っていくのは市民の皆さん。積極的に関わっていただきたいです。開館までの具体的な事業の内容は、市民の皆さんと共に考え、取り組んでいくのがよいと思います。

【田島】今日のテーマになっている、文化と地域社会を結ぶということだと思います。地域があり、そこに伝統文化があります。“伝統文化の継承”が地域をつくるものとなり、まちに役立つこと、喜ばれることに繋がるような拠点になればよいと思います。

【糸山】“そのまちにどんな人がいるか”が最も重要だと思っています。皆さんが自分事だと思えるためにはどうしたらいいかを考えながら、運営していただきたいです。

新しい施設に期待することをお聞かせください

【糸山】これまで文化芸術は東京や大阪が中心でしたが、今は地域への移住や活動が増え、様々な方に来ていただくこともできます。外部の方が関わることで、改めて唐津市の魅力に気づくこともあると思います。つながりを通じて、そういった取り組みができればよいと感じています。

【五島】市民会館と展示場が併設されている施設は全国的にも珍しい事例です。両方が共に活動することができれば唐津らしい、他にはない施設になるのではないのでしょうか。市民の皆さんが積極的に関わっていくことが“唐津らしい場所”へとつながる第一歩となります。

【田島】地域の結びつき、“共同体”のあり方は時代と共に変わってきています。その中で核になっているものをどう残し、つなげていくかが伝統文化には大切です。様々な場所で生み出された物を幅広く受け入れ、自分たちのものにしていける度量が唐津のまち、市民の中にはあると感じています。ぜひ、そういうものの中核となれるような施設であってほしいと思います。